川崎南支部だより

第511号　（平成29年11月発行）

発行者
(公社)神奈川労務安全衛生協会
川崎南支部
川崎区榎町5-13小林ビル101
電話 044-221-9082
FAX 044-221-9083
E-mail kawaminami@roaneikyo.or.jp
編集　広報委員会

第76回 全国産業安全衛生大会 2017 in 神戸

平成２９年度（第７６回）全国産業安全衛生大会が、１１月８日（水）から１１月１０日（金）の日程で、神戸市のワールド記念ホールを会場の中心として開催されました。当日は全国から多くの安全衛生関係者が集まり、総合集会・分科会等に参加されました。

今年は、「安全・健康の未来を拓こう　神戸から」をテーマとし、今年開港１５０年を迎えた国際都市「神戸」で、新たな時代における労働災害防止対策の共有や更なる充実が図られました。

初日の総合集会では、第１部の始まりにあたって兵庫県立高砂高等学校ジャズバンド部ビッグ・フレンドリー・ジャズ・オーケストラによるアトラクションが開会に花を添えました。

開会に先立ち労働災害、九州北部豪雨で不幸にして命をなくされた方々のご冥福を祈り、参加者全員による黙祷が捧げられました。

開会式では主催者代表による開会の辞、大会式辞に続いて、厚生労働大臣（代読）、開催地の兵庫県知事、神戸市長などの祝辞、さらには（一社）兵庫労働基準連合会会長のご挨拶を頂きました。

引き続き、全国から９４名の皆さまが受賞された中災防会長賞、顕功賞、緑十字賞の表彰式が行われました。これは皆さまの長年にわたる安全衛生活動とその功績が評価されたものです。川崎南支部の会員からは、東亜テックス（株）の元代表取締役社長今本幸彦さんが栄えある緑十字賞を受賞し表彰されました。

最後は“来年度からスタートする「第十三次労働災害防止計画」につながる各種取組みを参加者で共有し、労働災害による犠牲者をこれ以上出さないという決意のもと、すべての関係者が一丸となって、労働災害防止対策に取り組むことを誓う。”との大会宣言が全員一致で採択され第１部は終了しました。

第２部では、厚生労働省労働基準局の安全衛生部長より“労働安全衛生行政の動向”と題して講演が行われました。内容は「労働災害の動向」「ストレスチェックの実施状況」「働き方改革実行計画」等についてでした。

平成２８年の労働災害での死亡者数は過去最小の９２８名でしたが、平成２９年は９月末現在で６２９名と昨年同期比で７．３％増加という状況にあり、安全衛生活動の総点検、安全管理体制の確認等徹底のお願いがありました。

また、平成２８年度のストレスチェックの実施状況は８割の企業が実施しており、今年度の継続実施のお願いがありました。

引き続き、理化学研究所多細胞システム形成研究センターの髙橋政代氏による特別講演「網膜再生医療の開発～研究開発におけるリーダーシップ」が行われました。

２日目・３日目は、労働災害に関するテーマ毎にリスクアセスメント／マネジメントシステム、安全管理活動、安全衛生教育等、１２の分科会に分かれ、全国の事業場からの改善事例や研究発表をはじめ、安全衛生の専門家や幅広いジャンルの講師による講演、シンポジウム、対談・パネルディスカッション等が行われました。

参加者による会場での集合写真
（前列左から2人目が下村支部長、
同3人目が緑十字賞を受賞された今本さん）

また、今回の大会から新たに取り入れられた発表方式として、分科会期間中に研究発表の内容を取りまとめたポスターの掲示が行われました。さらには製造業安全対策官民協議会による特別セッションが行われ、有識者による基調講演、企業における安全活動の好事例の紹介、パネルディスカッションといった多角的な議論により、今後の取組みの向けた有効な情報の共有が図れていました。川崎南支部からは、安全管理活動分科会でＪＸＴＧエネルギー（株）川崎製油所、労働衛生管理活動分科会で味の素（株）川崎事業所が活動事例を発表されました。

今回は、全ての関係者が安全・健康・快適な職場づくりに向けて、労働災害防止対策によって新たな未来を切り開いていこうと心にした有意義な大会でした。

平成３０年度（第７７回）全国産業安全衛生大会は、平成３０年１０月１７日（水）から１０月１９日（金）に２５年ぶりに横浜市で開催されます。川崎南支部の会員からも複数の事例発表が予定されていますので、多くの安全衛生関係者に参加頂き、大会を盛り上げてまいりましょう。

～川崎南労働基準監督署より　緊急災害防止要請～

川崎南労働基準監督署における平成 29 年（10 月末の速報値）の労働災害による死亡者数は４人であり、前年と比べ２人（対前年比　100 パーセント）増加となっております。
特に９月以降に３人が死亡し、昨年の１年間の死亡者数２人を超えてしまいました。
このため、川崎南労働基準監督署長は関係労働災害防止団体（公益社団法人神奈川労務安全衛生協会川崎南支部　他）に対して緊急の災害防止要請を別添の通り実施しました。
各事業におかれましても安全衛生活動の総点検等を実施するようにお願いします。

川崎南基署発 1107 第３号
平成 29 年 11 月７日

公益社団法人神奈川労務安全衛生協会
川　崎　南　支　部　長　殿

川崎南労働基準監督署長

死亡災害の撲滅について（要請）

時下、益々御清祥のこととお慶び申し上げます。
日頃から労働基準行政の運営につきましては、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、第 12 次労働災害防止推進計画の最終年として、神奈川労務安全衛生協会川崎南支部の会員の皆様におかれましては、日頃から労働災害の防止に御取組みいただいているところですが、全国における死亡災害が夏場に急増し 9 月末現在で前年に対して 7.3%増加しました。また、神奈川局管内においては 7 月から 10 月の間に労働者 10 人が死亡しており、当署においても 9 月から労働者 3 人が死亡するという極めて憂慮すべき事態にあります。
これを踏まえ、厚生労働省労働基準局安全衛生部長から「職場における死亡災害撲滅に向けた緊急要請」が発せられ、これを受けて神奈川労働局長から貴団体の本部に対して要請を行ったところです。
つきましては、当署において発生した労働災害等を教訓に下記の事項について今一度ご確認いただき、より一層の労働災害防止への御取組みをお願いいたします。

記

１　事業場の安全衛生活動の総点検など

労使関係者が一体となって、基本的な安全管理の取組をはじめとする以下の労働災害防止活動を徹底すること。

（１）安全作業マニュアルの遵守状況を確認するなど、職場内の安全衛生活動の総点検を実施すること。

（２）安全管理者、安全衛生推進者、安全推進者等を選任し、その職務を確実に遂行させるなど、事業場の安全管理体制を充実すること。

（３）雇入時教育等を徹底するなど、効果的な安全衛生教育を実施すること。

２　死亡者数が増加している業種（製造業等）での取組のポイント

（１）リスクアセスメントや機能安全による機械設備の安全対策の実施

機械設備による「はさまれ・巻き込まれ」死亡災害が発生しています。全国の製造業の死亡災害の３分の１を「はさまれ・巻き込まれ」が占めています。

（２）高経年設備に対する優先的な点検・補修の実施

設備の老朽化等による火災等の災害が発生していることから、高経年設備に対する優先順位を付けた点検補修等を実施してください。

（３）荷役作業時等における「墜落・転落」災害等の防止対策の実施

「荷役５大災害防止対策チェックリスト」を活用した荷役作業の安全対策を実施してください。

要請事項

★重要な共通取組内容

労使をはじめ、関係者が一体となって次の取組を徹底し、労働災害防止に努めること。

1 安全作業マニュアルの遵守状況を確認するなど、職場内の安全衛生活動の総点検を実施すること
2 安全管理者、安全衛生推進者、安全推進者等を選任し、その職務を確実に遂行させるなど、事業場の安全管理体制を充実すること
3 雇入れ時教育等を徹底するなど、効果的な安全衛生教育を実施すること

★死亡災害が増加している業種での取組ポイント

建　設　業

○建設機械などによる「**はさまれ・巻き込まれ**」
⇒労働者の立入り制限や誘導員の配置など、車両系建設機械などとの接触防止対策の実施
○屋根や足場などからの「**墜落・転落**」
⇒高所作業における作業床の設置、安全帯の着実な使用などの墜落・転落防止対策の実施
○「**交通事故（道路）**」
⇒「交通労働災害防止のためのガイドライン」に基づく対策の実施

陸上貨物運送事業

○荷役作業時などの「**墜落・転落**」
⇒荷役５大災害防止対策チェックリストを活用した荷役作業での安全対策の実施
○「**交通事故（道路）**」
⇒「交通労働災害防止のためのガイドライン」に基づく対策の実施

林　　業

○伐木などによる「**激突され**」
⇒「チェーンソーによる伐木等作業の安全に関するガイドライン」に基づく対策の実施

製　造　業

○機械などによる「**はさまれ・巻き込まれ**」
⇒リスクアセスメントや機能安全による機械設備の安全対策の実施
⇒高経年設備に対する優先順位を付けた点検・補修などの実施

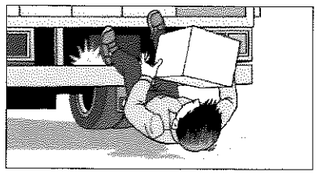
荷役５大災害防止の取組とは・・・

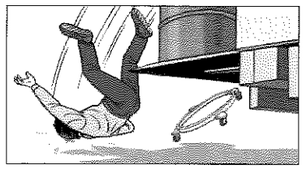
神奈川労働局

独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所における調査等では、トラック運転者が荷主先等で荷役作業中に発生した死亡労働災害を分析したところ、**以下の①「墜落・転落」②「荷崩れ」③「フォークリフト災害」、トラックによる④「無人暴走」⑤「後退時の災害」**が約80%を占めていることが判明しております。これらを「荷役５大災害」に位置付け、陸運事業者及び荷主等が特に重点的に実施すべき事項を陸運事業者用チェックリスト、荷主等の事業者用チェックリストに分けて自主点検していただき、積極的に荷役災害防止に向けた取組を展開していただきますようお願い申し上げます。

１「墜落・転落」災害

- 陸上貨物運送事業における労働災害の中でトラックの荷台等からの「墜落・転落」が最も多く発生。
- 67%が「保護帽未着用」で発生。そのうち「高さが 2m 未満」からの「墜落・転落」が最も多く、もし保護帽を着用していれば死亡災害に至らなかった可能性があります。

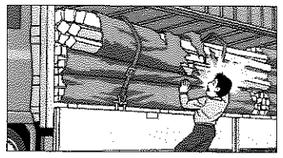


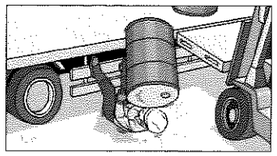


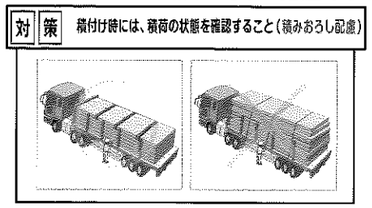
２「荷崩れ」災害

- トラックの荷台等での「荷崩れ」による死亡災害では、「積みおろし時における被災」が「荷崩れ災害」の半数以上を占めており、荷物の固定・固縛が 不適切だった例が多く見られています。

※ 通常、積みおろし担当者は積付け時の状況が分からないため、 積みおろし時の危険を的確に把握できず、その結果災害に至ってしまうケースがあります。

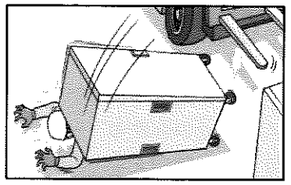


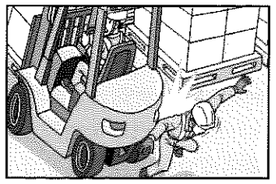


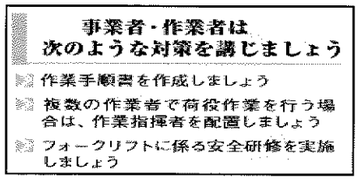


３「フォークリフト災害」

- フォークリフトの死亡災害では、フォークリフトのオペレーター（運転手）による 不適切な運転操作や、フォークリフトで持ち上げた荷物の荷崩れ、フォークリフトと別の作業者との接触など、オペレーター並びに周辺にいる他の作業者が本来禁止されている行動を取ったことによるものが多いことが判明。

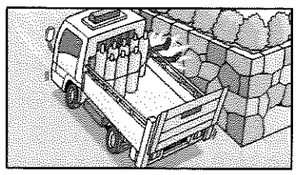






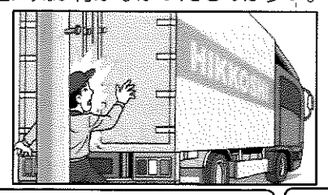
４トラックによる「無人暴走」

- パーキングブレーキを使用しなかった、再度ブレーキが緩かったなどで降車したことが大半。



５トラック「後退時の災害」

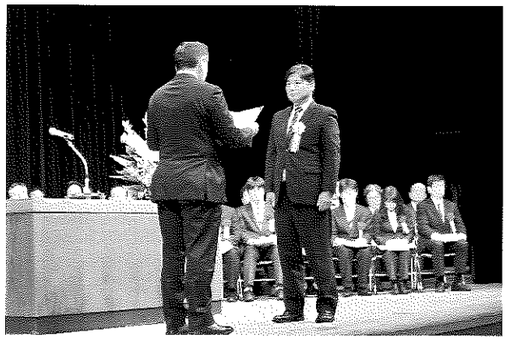
- トラック後方にいた被災者がトラックの後退に気が付かなかったものが多い。



※ 詳しくはホームページをご覧ください。 重大な労働災害を防ぐためには 検索

《平成29年度神奈川労務安全衛生大会》開催

主催 （公社）神奈川労務安全衛生協会



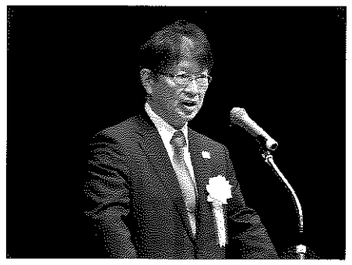
功労者表彰者の代表として賞状を受け取る川南支部の福田さん

署長、支部長を交えての記念撮影（敬称略）
前列左から、松井支部長代行（向上貿）、大丸、渡辺
後列左から、下村支部長、福田、佐藤、靏巣、松島署長

１０月１９日（木）川崎市「川崎市教育文化会館」において、平成２９年度「神奈川労務安全衛生大会」が開催されました。

【第一部：表彰式】

大会の冒頭に、不幸にして尊い命をなくされた方々へ哀悼の意を表し、全員で黙祷を捧げ、労働災害の撲滅への誓いを新たにしました。その後、三上協会副会長より「開会の辞」が行われ、続いて、平成２９年度労務安全衛生功労賞並びに支部別安全競争上位入賞の表彰式が行われました。川崎南支部からは別記の６名の方々が受賞されました。心よりお慶び申し上げます。



下村支部長による大会宣言

また、支部別安全競争では、川崎北支部が優勝、川崎南支部が向上賞として表彰されました。川崎南支部関係事業場におかれましては、今後とも労働災害統計の提出のご協力をお願いいたします。

各表彰が終わり、主催者の神奈川労務安全衛生協会細谷副会長の挨拶に続いて、姉崎神奈川労働局長、ほか来賓の皆様より暖かいご祝辞をいただきました。

続いて川崎南支部の下村支部長より「長時間労働削減への取り組み、過重労働による健康障害防止対策、メンタルヘルス対策など、健康確保対策に積極的な取り組みが求められているところであり、全ての職場で災害があってはならないという願いは、共通の思いであることから、安全と健康を守る現場力を強化して、仕事と生活の調和のとれた働き方によって健康を確保していき、働くすべての人々が安心して健康に働くことができる社会の実現をめざして、「産業・企業の健全な発展」の旗印を高らかに掲げ、あらためて各事業場、各事業場の英知と総力を結集することをここに誓う」との大会宣言が行われました。

最後に、塙協会副会長により「閉会の辞」にて第一部が終了となりました。

【第二部：特別講演】

第二部の特別講演では、順天堂大学医学部特任教授の奥村康氏より、「免疫と長生き（不良長寿のすすめ）」と題しての講演がありました。

（広報委員記）

【労務安全衛生功労賞】川崎南支部受賞者（敬称略、順不同）

本部からの推薦

大丸　康二	川崎南支部事務局

川崎南支部からの推薦

福田　洋司	日本冶金工業㈱　川崎製造所
佐藤　好晃	㈱富士電機フロンティア
中川　靖之	プレス工業㈱　川崎工場
靏巣　修	川崎化成工業㈱　川崎工場
渡辺　悟	JFEスチール㈱　東日本製鉄所（京浜地区）

非定常作業災害防止対策研修会

１０月１３日（金）川崎市教育文化会館において「非定常作業災害防止対策研修会」を開催し、２３社６０名の方が受講されました。

この研修会は、秋の定期修理や大規模工事を迎える時期に入る前に、各種工事に起因する災害を防止する目的で、防爆部会が毎年開催しています。研修内容は防爆部会員による手作り資料を用い、事故事例を取り入れた身近な内容になっています。

研修会の内容は毎年変えていますが、防爆部会では２年ごとに自主安全管理補足シリーズという約７０ページのテキストを作成しており、このシリーズは「火気使用工事」、「掘削工事」、「タンク内作業」、「高所作業」の４つのテキストからなっています。「タンク内作業」のテキストは前回平成１９年９月に改定しており、今回は酸欠事故の防止に特化して、監督署の監修のもとに再度改定しました。

従来の研修会では部会員が「安全管理」、「事故事例」を紹介し、労働基準監督署から特別講演を行なって頂く午後半日の研修会でしたが、今回は内容を充実させ酸素濃度測定器メーカー、大学の呼吸器内科の先生による専門的な講演をお願いし、丸一日の研修会としました。

講師の説明に集中している受講者

具体的にはこの改訂版「タンク内作業」のテキストを受講者全員に配布し、部会員が「非定常作業の安全管理」、「タンク内作業における事故事例」につて紹介し、次いで測定器メーカーの理研計器から「タンク内作業に係わる測定器について」、そして「酸欠作業を中心とした作業環境管理」と題して川崎南労働基準監督署の第２方面主任監督官から説明がありました。最後に特別講演として「酸素欠乏症の発症メカニズム、症状と対処法について」と題して、聖マリアンナ医科大学呼吸器内科の井上准教授から最新の知見に基づく専門的な解説をして頂きました。受講者からのアンケートの結果を見ると、特に専門家の先生からの説明はとても勉強になったと大変好評でした。

また、上述のテキストでは各説明ポイントに根拠法令の規則番号が示してありますので、対象法令を調べる手間が省け使いやすいものになっており、様々な利用方法があると考えます。

アンケートでも「タンク内作業に関する内容がバランスよくまとめられており使いやすい」、「大変参考になるテキストで利用価値が高い」との意見が数多くありました。当該テキストの購入を希望される方には、印刷・製本代の実費として１冊 1,000 円で提供できますので、支部事務局に問い合わせて下さい。

（防爆部会）

川崎南支部行事予定

開　催　日	曜日	開催時間	内　　容	開　催　場　所	募集人員
平成29年12月6・7日	水・木	０９：１５	職長教育	川崎市教育文化会館	８０名
平成30年1月18・19日	木・金	１０：００	安全管理者選任時研修	川崎市教育文化会館	８０名
平成30年1月23日	火	１２：４５	安全祈願祭	稲毛神社	役員
〃	火	１３：３０	経営者セミナー	川崎日航ホテル	１００名
〃	火	１７：１５	新年賀詞交換会	川崎日航ホテル	１００名